

## 技 術 仕 様

### 1 多項目自動血球分析装置は以下の要件を満たすこと。

- 1-1 血球計数検査項目は、8項目（WBC、RBC、HGB、HCT、MCV、MCH、MCHC、PLT）を測定する機能を有すること。
- 1-2 白血球分類は、5分類（Neut、Lymp、Mono、Eos、Baso）を%と実数を測定する機能を有すること。
- 1-3 血球計数（8項目）、白血球分類（5分類）の2つの検査項目が1検体毎にオーダの組み合わせでランダムに測定する機能を有すること。
- 1-4 全ての測定モードにおいて有核赤血球を定量測定しWBCを自動補正する機能を有していること。
- 1-5 HGBの測定については、シアンを含まない方法であること。
- 1-6 赤芽球は、%と実数を測定する機能を有すること。
- 1-7 測定装置には測定結果条件設定することで、リラン・リテスト・リフレックステストを自動的に行えるシステムを有すること。
- 1-8 白血球については、幼若な白血球の場合、フラッグ表示機能を有すること。
- 1-9 低値（1000個/ $\mu$ l）の白血球をCV15%以下で測定できる方式を有すること。
- 1-10 処理能力は血球計数＋白血球分類で1台あたり100検体/時間以上であること。
- 1-11 吸引血液量は、サンプラー方式（自動転倒混和）、マニュアル方式ともに100 $\mu$ L以下であること。  
また微量採血管（50 $\mu$ l）にも対応できること。
- 1-12 検体架設はラック方式であり一度に10本セットできること。
- 1-13 採血管の検体バーコード読み取りやすいように回転方式を有していること。

### 2 多項目自動血球分析装置の制御部について、以下の要件を満たすこと。

- 2-1 スキャッタグラム、粒度分布を含め、検査結果を100,000検体以上記憶する機能を有すること。
- 2-2 患者情報（患者ID、患者氏名、診療科、依頼医師名）を10,000検体以上記憶する機能を有すること。
- 2-3 記憶データの中から、患者毎に数値、スキャッタグラム情報を含めて時系列表示する機能を有すること。
- 2-4 精度管理のターゲット値、リミット値は測定すれば自動的に配信される仕組みを有していること。
- 2-5 ネットワークを通じて装置の状態を把握、分析を実施し、故障箇所の推定や、修理が必要な情報を出力する機能を有すること。

### 3 保守・メンテナンスについて、以下の要件を満たすこと。

- 3-1 機器の保守及びメンテナンスは機器製造販売元と同じメーカーが責任をもって行うこと。
- 3-2 トラブル時素早く対応するために静岡市内にメンテナンス拠点を持つこと。
- 3-3 ネットワークにより機器の状況をリアルタイムに監視、場合によってはトラブルを可能な限り事前に防ぐための予防措置を行うこと。